第３８回大阪高校サマーテニストーナメント

大会役員

大会会長

小野　　明　（ダンロップスポーツウェルネス）

大会委員長（大会ディレクター兼大会レフェリー）

足立　哲也　（ダンロップスポーツウェルネス）

大会副委員長

神保　秀亮　（大阪女学院）

大会委員（レフェリー）

岸本　圭司（大阪成蹊）　・　岸上　啓幸（関大北陽）

北野　英敏（太成学院）　・　辻　博規（大体大浪商）

大上　典秀（金蘭会）　・　府川　昭彦（大阪学院）

大石　一星（梅花）　・　竹田　和樹（関西福祉科学）

石橋　勇紀（あべの翔学）

麻野 剛志 ・ 岡部 直樹 ・ 上野 克起 ・ 山根 正和

（ダンロップスポーツウェルネス）

進行係　　各高等学校テニス部顧問

ダンロップスポーツウェルネススタッフ

進行補助員　各高等学校テニス部部員

ダンロップスポーツウェルネススタッフ

大　会　注　意　事　項

１．試合球について

今大会での使用球は「ダンロップＨＤ」で、原則として試合当日会場にて配布されます。
１試合ごとに新球を使用しますので、試合の度に各会場本部より新球をもらってください。
（会場の指示に従うこと）
試合の敗者は、その試合で使用したものを持ち帰ってください。
試合を欠席した場合は、当日に限り同じ学校の選手に持って帰ってもらえます。

２．集合時間・出席の届け出について

集合時間は会場による指定がない限り８時４５分で、試合開始は９時です。
集合時間の２部制を採用している会場は、集合時間を別途記載しています。
出席届け出までに、本人が更衣の上、試合ができる状態で運営本部に出席を届け出ること。
この時刻に出席が届いていない場合は棄権したものとみなします。
また、同じ学校選手で欠席が分かっている場合は本部に届けること。
ただし、雨天等で時間通りにコートが使用できない場合は、各会場で設定する試合開始時間の１５分前までに出席を届ければよい。

３．試合開始と進行

・原則として会場は午前９時より試合を開始する。（会場で指定があればそれに従う）
　２部制集合会場は、その指示に従う。（集合時間以降）
・試合は、オーダーオブプレーによりラウンドを考慮し、ドロー番号順に進行する。
・オーダーオブプレーに名前が貼り出された選手および発表のあった選手は、運営本部で試合球を受け取ること。（会場の指定があればそれに従う）
・試合は日程表に基づき進行するが、天候やその他やむを得ない理由により変更することがある。（中止時の残り試合などは別途設定される）
・スムーズな試合進行のため、会場レフェリーがローカルルールを適用することがある。

４．試合について

・服装と用具については、「ＪＴＡテニスルールブック・コードオブコンダクト・服装と用具」による。
・服装はテニスウェアに限る。長袖、長ズボン（それに準ずる服装）では試合はできない。
　インナー・スパッツは着用可。
　服装の適否はレフェリーが最終判断し、必要に応じて服装の交換を指示される。ただし、会場レフェリーがローカルルールを適用することがある。
　※着用できない服装…テニスウェアと称されない服装。（Ｔシャツ・ランニングシャツ・ランニングパンツなど、学校体操服も不可）
・靴は必ずテニスシューズを使用すること。

・服装の製造業者ロゴに関しては注意すること。大きさや数量に制限があります。
・時間の管理はアンパイアおよび会場レフェリーが行う。
・一人が連続して試合をしなければならないときの休憩は、レフェリーが判断する。

《試合の待機》

試合は進行表“オーダーオブプレー”により行うので、控えとなった選手は指定された場所またはコートサイドで待機し、前の試合が終われば直ちにそのコートに入り試合を始めること。また“オーダーオブプレー“の表示は変更する場合があるので、待機中も常に”オーダーオブプレー“に注意をしておく必要がある。
時間に遅れた場合、失格となることがある。

《試合開始前に》

・コートに入ったら、必ず対戦相手を確認すること。
・コート内でのウォームアップは原則としてサーブ４本のみとする。
・試合は１セットマッチ、６ゲームオールタイブレークとする。（７ポイント）
・審判は、セルフジャッジを採用します。
・コートに入れる人は、プレーヤー・レフェリーのみとします。（ボールパーソンは不可）

《試合中》

・プレーは最初のサービスから試合終了まで連続的に行われなければならない。（25 秒、90 秒ルールの悪用禁止）
筋肉ケイレンについては、プレーヤーはエンド交代の時間内に限り処置を受けることができる。筋ケイレンの処置でＭＴＯ（メディカルタイムアウト）は与えられない。
・試合が終了するまで許可を得ないでコートを離れることは許されない。もし離れた場合はテニス規則に従って、失格する。
・選手は自分の側のコートに関して、「アウト」「フォールト」のみを、ハンドシグナルと声で即座に相手に分かるように伝えなければならない。
・セルフジャッジの試合は、サーバーはサーブを行う前に現在のポイントを相手に分かるようにコールしなければならない。レシーバーはコールが正しいか確認しなければならない。
・不適切なジャッジは会場レフェリーが権限として、オーバールールする。
・試合中は、同学校選手であってもコート外にいる者と一切会話はできない。

《試合終了後》

・試合が終了したら両者の健闘をたたえ、スコアを確認した後コート中央で握手をする。
・勝利者は、直ちに結果を本部に報告すること。

※　注意　※

・アウト、インの判定を巡って相手側コートへ行くことは認められない。
・試合中ラケットのガットが切れた場合、ラケットを交換してもいいし、そのまま最後まで試合を続行してもかまわない。（ただし次の試合からは交換したものを使用すること）
・プレーヤーは、試合中は何人からもいかなる方法においてもアドバイスを受けてはならない。また、誰であってもプレーヤーにアドバイスをしてはならない。

・コーチは試合中あるいはトーナメント会場内で、相手選手、アンパイア、観客、トーナメント役員などに対して、言葉やジェスチャーを使った侮辱や、暴力を振るってはならない。レフェリーは試合コートあるいはトーナメント会場からの退場を命じ、その選手を失格にすることができる。

５．持ち物とごみについて

・持ち物（特に貴重品）は各自が責任を持って管理すること。
・大会会場の美化には、最大限協力しなければならない。
・「ごみ」は必ず各自で処分すること。
・「ごみ」の放置を発見した場合は、以降の参加を制限する場合がある。

６．その他

・悪天候により大会運営が困難になった場合、本大会要項並びに試合内容を変更して開催する場合がある。
・試合において不正があった場合、また器物破損などの暴行を働いた場合は、その生徒の所属する学校へ厳重に注意を行う。
・プレーの妨げになるので、コートサイド・通路等では騒いだり、大声を出したりしてはならない。
・レフェリーや会場の係りの指示・注意を守り、テニスプレーヤーにふさわしい行動をとること。（スポーツマンシップの遵守）
・規則・注意事項に関して、再三注意を受けても守らない場合は、テニス規則により失格とすることがある。
・『TENNIS RULE BOOK ２０２４』（ルールブック）などにより、日頃からルールやマナーの研鑽に努めること。
・会場には、バイクや車を運転して来ることを禁ずる。
・大会会場において動画・静止画を撮影される場合は、必ず相手側にも了承を得るなどし、無断撮影をしないこと。たとえ了承を得て撮影されても、本人の同意なくＳＮＳなどに投稿する行為を禁止します。
また本人のみ撮影する場合も、他の方の映り込みなどには十分注意を払うこと。